

学校だより 雄飛

佐倉市立西志津中学校 第5号 令和7年9月2日(火)
『自他を認め 進んで考え挑戦し 未来を拓く生徒の育成』
～自己指導能力とWell-beingの涵養～
挑戦(Challenge)・認め合い(Respect)・粘り強さ(Resilience)
発行責任者 岩崎 徹(文責 飯島 健弘)
生徒数 1年118名 2年130名 3年152名 計400名

〒285-0845 佐倉市西志津4-18-1 043-462-1161

◇『鳶飛魚躍』◇

校長 岩崎 徹

保護者の皆様のおかげで、大きな出来事の知らせなく、西中の2学期が穏やかに始まっています。今年度の西中スローガン「挑戦・認め合い・粘り強さ」を発揮した夏休みだったでしょうか。さらに自分を成長させる2学期になるよう、1学期に続きご協力をお願いいたします。

さて、令和7年(昭和100年)も半ばを過ぎ、去る8月15日(金)で戦後80年の節目を迎えました。1970年8月23日、大阪万博でのコンサートで初めて歌われた「戦争知らない子供たち」のタイトルのとおり、子供たちはおろか大人たちの多くも戦争を知りません。国民の6%程度の戦争を経験された方々は、毎年1%程度ずつ少なくなると言われ、誰も戦争を知らない時代が到来することは遠くありません。唯一の戦争被爆国である日本に生まれ育つ私たちは、この現実をどう受け止め、そして何をすべきか、何ができるのかを考えます。佐倉市では「平和使節団」として、中学生を被爆地である広島と長崎のいずれかを訪問する事業が28回目、今年度西中を代表して3年4組の神座淳人さんと3年3組の阿部仁香さんが長崎を訪れ、そこで感じた思いを始業式で発表してくれました。その長崎と同じ被爆地広島の市長である松井一實さんの今年の「平和宣言」の一節を紹介します。

今から80年前、男女の区別もつかぬ遺体であふれかえていたこの広島の街で、体中にガラスの破片が突き刺さる傷を負いながらも、自らの手により父を茶毘に付した被爆者がいました。「死んでもいいから水を飲ませて下さい!」と声を振り絞る少女に水をあげなかったことを悔やみ、核兵器廃絶を叫び続けることが原爆犠牲者へのせめてもの償いだと自分に言い聞かせる被爆者。原爆に遭っていることを理由に相手の親から結婚を反対され、独身のまま生涯を終えた被爆者もいました。

そして核兵器のない平和な世界を創るためには、たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話をしてみることが大事であり、決してあきらめない「ネバーギブアップ」の精神を若い世代へ伝え続けた被爆者。こうした被爆者の体験に基づく貴重な平和への思いを伝えていくことが、ますます大切になっています。

しかしながら、米国とロシアが世界の核弾頭の約9割を保有し続け、またロシアによるウクライナ侵攻や混迷を極める中東情勢を背景に、世界中で軍備増強の動きが加速しています。各国の為政者の中では、こうした現状に強くとられ、「自国を守るためには、核兵器の保有もやむを得ない。」という考え方が強まりつつあります。こうした事態は、国際社会が過去の悲惨な歴史から得た教訓を無にすると同時に、これまで築き上げてきた平和構築のための枠組みを大きく揺るがすものです。

このような国家が中心となる世界情勢にあっても、私たち市民は決してあきらめることなく、真に平和な世界の実現に向けて、核兵器廃絶への思いを市民社会の総意にしていかなければなりません。そのために、次代を担う若い世代には、軍事費や安全保障、さらには核兵器のあり方は、自分たちの将来に非人道的な結末をもたらす得る課題であることを自覚していただきたい。その上で、市民社会の総意を形成するための活動を先導し、市民レベルの取組の輪を広げてほしいのです。その際に心に留めておくべきことは、自分よりも他者の立場を重視する考え方を優先することが大切であり、そうすることで人類は多くの混乱や紛争を解決し、現在に至っているということです。こうしたことを踏まえれば、国家は自国のことのみに専念して他国を無視してはならないということです。

国家間の戦争や紛争を好み、肯定する人はいません。しかし、身近なところに目を向けると、大なり小なり日々諍いが絶えないのはなぜなのでしょう。世界平和に通じる一歩目は、自分の身の回りから諍いを無くすことだと思います。そのための大切な心の在り様が平和宣言から伝わります。

○たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話をしてみること

○決してあきらめない「ネバーギブアップ」の精神

○自分よりも他者の立場を重視する考え方を優先すること

米軍機の機長として太平洋戦争を経験したロバート・ゴールズワージーさんは、日本軍戦闘機の襲撃を受け、千葉県神代(じんだい)村(現東庄町)山林に墜落し、村人らに捕らえられたのち、村職員が村人を「危害を加えてはならない」と説き伏せたおかげで終戦後に帰国できたそうです。その後、再び日本を訪れることになり「戦争には、勝者も敗者もない。悲しみが残るだけだ」と語ったそうです。また、Nobody wins a war. 「戦争に勝者はいない」という英語の諺があります。先人の経験も、知恵も、過去の歴史も、争いごとに勝者はなく、だれもが敗者になることを示しています。

長い夏休みが明け新たな始まりの9月。他者の考え・感情・立場を話し合うことで理解するよう努力し、困難な状況にあっても粘り強く改善をあきらめない。自分の言動が他者にとってどうであるか、相手のためになるかの意識を続ける。そんな身近の平和に意識を高める2学期であるようお力添えをお願いします。

音楽科より



今年度のやまぶき祭について

1学期の後半から、10月3日に行われるやまぶき祭クラス合唱曲の選曲、パート練習に取り組んでいます。練習では、美しいハーモニーが響くことを意識して練習しています。

では、ハーモニーとは何でしょうか。もともとは、Harmonia(ハルモニア)という「調和」を意味するギリシャ語が語源となっているようで、異なる要素が統一感を持ち、バランス良く組み合わせられている状態を指す言葉だそうです。音楽的に言えば、2つ以上の異なる音が重なり合ったものをハーモニーと言います。

しかし、やまぶき祭で、美しいハーモニーを響かせるとは、音楽的にきれいな声で音を重ねるだけではないように思います。クラスの中には、歌うことが得意な人も苦手な人もいます。歌うことが好きな人もあまり好きでない人もいます。そういった十人十色の個性をもった一人ひとりが、一緒になって合唱を作り上げるのですから、容易なことではありません。みんなが自分のことだけを考えていたのでは、決して「調和」することはないでしょう。夏休みからクラスのために練習を積んできた指揮者や伴奏者、毎日の練習を引っ張っている歌声委員やパートリーダー、このメンバーで最高の思い出を作ろうとしている級友。そういった仲間のことを思い、自分ができることは何かを考え、みんなが心を合わせて練習を積み重ねていくことで、クラスが一つにまとまり調和して、美しいハーモニーが生まれるのだと思います。そして、その想いが歌にこめられているからこそ、それを聴いた人たちは感動するのではないのでしょうか。

音楽には不思議な力があります。私は脳の仕組みについて、詳しく説明することはできませんが、自分が過去に練習したり、演奏したりした音楽を聴くと、古い記憶や感情が呼び起こされることがあります。あの時はこんな気持ちだった、こんな友達がいいた、最初はうまくいかなかったけど最後には歌えるようになった!今の自分が苦しくなったときには、その記憶が自分を励ましてくれることもあります。

今回のやまぶき祭では、各クラスの想いのこもったハーモニーが、ホールと、みんなの心に響くにもものになることを楽しみに、限られた練習時間を大切に取り組んでいきたいと思います。また、今回歌う歌が、みなさんの大切な思い出の1曲になることを願っています。

音楽科主任 田中美公子

9月の予定

2日	火	45分×6 弁当持参	16日	月	東証出前授業(3年) 一斉下校14:45
3日	水	給食開始	18日	水	実力テスト(3年)
8日	月	職員会議 一斉下校14:50	22日	月	合唱中間発表会 一斉下校15:15
9日	火	質問学習会 最終下校15:35	24日	水	個票配付 一斉下校15:25
10日	水	第2回定期テスト 一斉下校12:20	25日	火	放課後 全校評議会
11日	木	第2回定期テスト 一斉下校12:25	29日	月	生徒会役員選挙
スクールカウンセラーの出勤日は、木曜日です。9月は4日(木)と18日(木)と25日(木)です。					

学習指導部より

＜ 夏休み明け ＞

夏休みが終わり、新学期がスタートしました。今年の夏休みはどのように過ごされたでしょうか。生徒の皆さんにとって、夏休みは自分のペースで学習を進めたり学びを深めたりする絶好の機会でもありました。普段の授業では経験できないような、様々なことに挑戦できたのではないのでしょうか。例えば、読書や自由研究、家族との時間を通じて、思考力や創造力を高めることができたかもしれません。

さて、新学期が始まった今、次の大きな目標は定期テストです。テストは自分の理解度を確認するための大切な機会です。夏休みに蓄えた知識や経験を活かし、自分のペースで計画的に勉強を進めていきましょう。「わかる」から「できる」へと変えるには、繰り返し学び、自分の力で解けるようになることが必要です。学校では引き続き、授業や課題の充実を図りながら、生徒一人ひとりの学びを支えていきます。

＜ 話の聞き方 ＞

自分と他者とのやりとりの中で「話を聞くこと」はただ情報を受け取るだけでなく、心を通わせる重要な手段となります。そこで西志津中学校の合言葉として『に・し・ちゅ・う』『にっこりと、しせいよく、ちゅういぶかく、うなずきを大切に!』を合言葉として、学校生活の中で「話の聞き方」を意識することに重点を置いていきます。よい聞き手は相手を尊重し、誠実な対話を促進します。そして信頼関係が築かれ、より良いコミュニケーションが生まれることを期待します。

学習指導部 小林 真理子

生徒指導部より

＜ 7・8月の振り返り ＞

夏休みを含む7月・8月は、「互いが気持ちよく過ごせるような言動を意識させる」を目標としていました。友達同士で過ごす時間や、家庭・地域の中で過ごす時間が多い2か月だったかと思いますが、振り返ってみていかがでしょうか？自分の言動を意識できたでしょうか？また、SNSなどの使い方についても、夏休み前に話をしたかと思います。自分たちで考えた「行動宣言」を意識して、情報機器や SNS などを活用できたでしょうか？こちら、互いのことを考えた使い方が必要です。9月からの新学期も、部活や委員会など新しいメンバーでの活動の場面や、行事などに向けての取り組みがあります。様々なことへのチャレンジの中で、うまくいかないこともあるかもしれませんが、引き続き互いのことを考えた言動を心がけて、仲間と協力して困難を乗り越えていけるように支援してまいります。

＜ 9月の生活目標 ＞

9月は「自分からあいさつをする」ことを意識してほしいです。4月にも挨拶を目標としましたが、その後はいかがでしょうか？見ていると、だれかからの挨拶にはしっかりと返せる生徒はいるようですが、「自分から」のあいさつは徐々に減ってきているように感じます。生活委員の朝の挨拶運動でも、7月は暑さのためか、4月ほどの元気な挨拶は少なくなっていました。新たな学期の始まりに、自分から進んで挨拶をするをもう一度意識して、互いに気持ちの良い新学期を迎えられるようにしたいと思います。

生徒指導部 金谷 晨

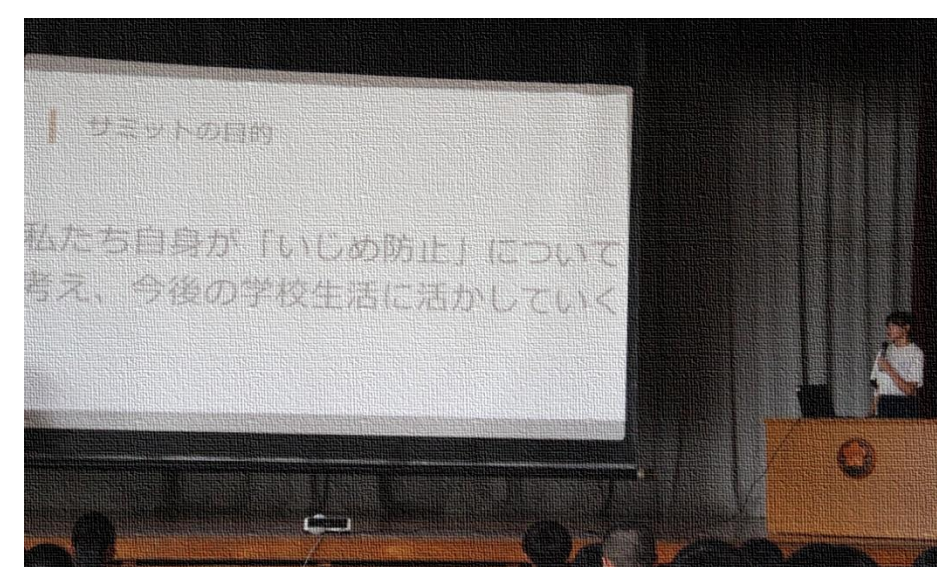


3-1	篠崎 美湖さん	印旛郡市総合体育大会陸上競技の部共通女子砲丸投2位
3-1	竹内 琴音さん	印旛郡市総合体育大会バドミントンの部女子シングルス準優勝
3-2	毛利 彩乃さん	(吹奏楽部) 千葉県吹奏楽コンクール中学生の部A部門銅賞
1-1	三村 彩乃さん	千葉県小中高校席書大会千葉日報社賞
2-1	菅野 玲奈さん	千葉県小中高校席書大会書星会賞
2-2	五十嵐 美貴菜さん	千葉県小中高校席書大会書星会賞
1-1	西井 杏実さん	千葉県小中高校席書大会書星会賞
1-2	佐藤 れいさん	千葉県小中高校席書大会書星会賞



佐倉平和使節団

佐倉平和使節団の報告をしてくれた
3-3 阿部仁香さんと3-4 神座淳人さん
戦争体験者のお話を聞いた感想と平和の大切さ・原爆の恐ろしさ・今の生活の大切さを自らの言葉で語ってくれました。



佐倉市いじめ防止サミット

第11回佐倉市いじめ防止サミットに参加した感想を報告してくれた2-4 結城実唯さん
傍観者が何か行動を起こすことで何かが変わることを知り、自分では思いつかない考えを共有することができました。いじめで悲しむ人を減らすためいじめについて考え、発信することは大切だと力強く呼びかけてくれました。